

# しちがはま

## 議会だより

No. 113

平成24年11月1日  
宮城県七ヶ浜町議会



### 元気に踊ろう

(幼稚園と保育園の合同運動会)

特集 レッドゾーンを制定	2
動き出す高台移転	10
おらほの学校紹介シリーズ ー第3回ー	15
町の防災会議に女性の参画を など 7人が質問	16



# 特集

# この場所には住宅を建てられません

## 平成24年9月から適用

### レッドゾーン

## 災害危険区域条例を制定

東日本大震災による津波で家屋が流出するなど甚大な被害があった地域が対象です。住むことが危険な場所や道路、防潮堤の整備などで移転を促すため、土地の利用を規制する条例が提案され賛成12人、反対3人の賛成多数で可決しました。

震災前まで住んでいた方の声を取材しました。

吉田浜の  
稲妻 公志さん

危険区域条例の被災住民に対する説明がまだ不十分だ。被災した住民に寄り添う方策は『自分の土地に住めなくなる無念さ』を行政が心で受け止め、時間をかけても納得できる説明が欲しい。

花洲浜の  
鈴木 善治さん

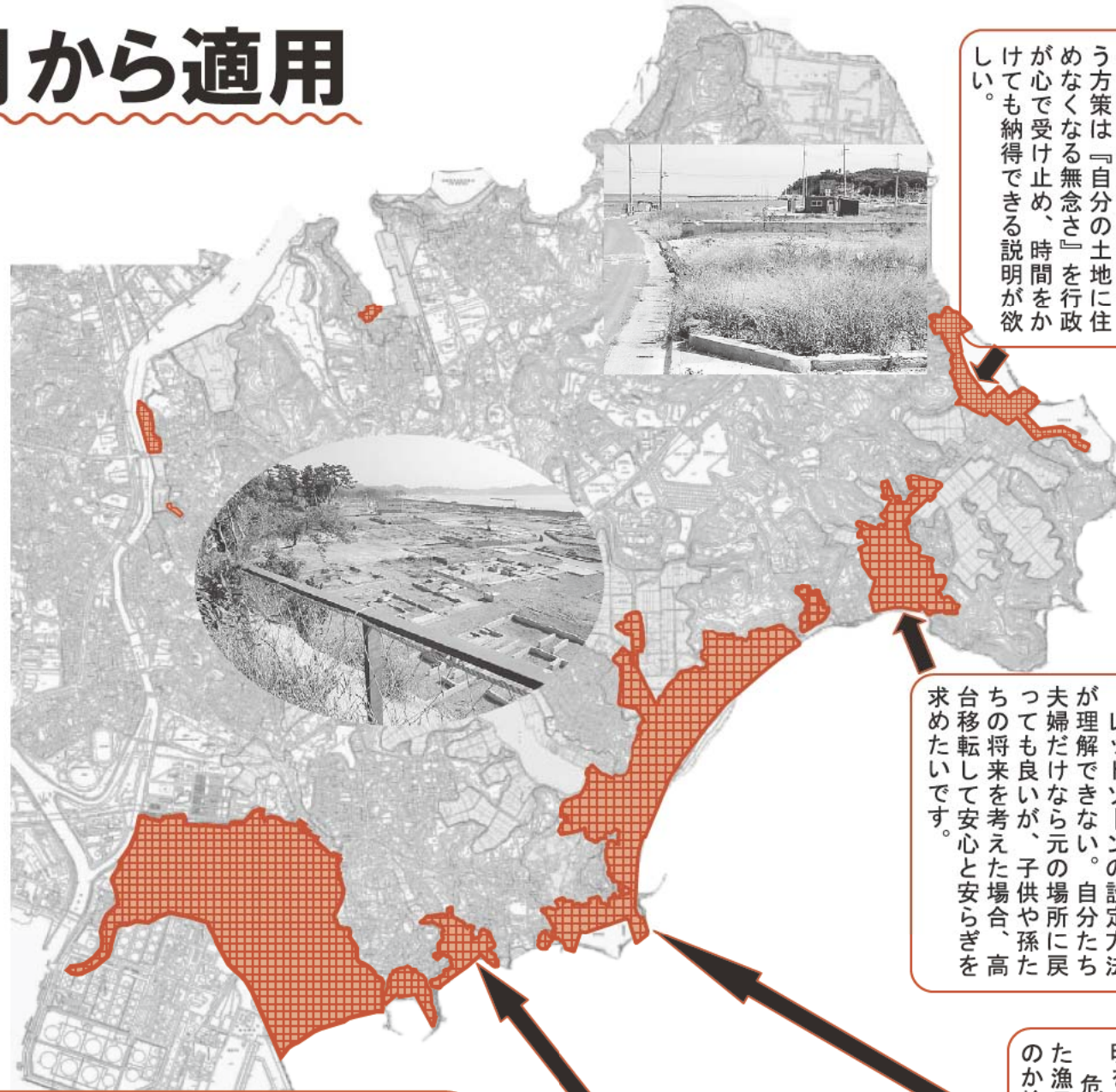
レッドゾーンの設定方法が理解できない。自分たち夫婦だけなら元の場所に戻っても良いが、子供や孫たちの将来を考えた場合、高台移転して安心と安らぎを求めたいです。

菖蒲田浜の  
渡辺 俊明さん

高台移転の説明会で聞いた内容が理解できなかった。町民に分かりやすい説明をお願いしたい。危険区域の土地を利用した漁具保管場所にならないか検討願いたい。

松ヶ浜の  
鈴木 啓子さん

家の窓から見える青い海を眺めていつも心が癒やされてきました。環境の変化は寂しいですが、移転先が近いので地域の方とこれまで通りのお付き合いができるので安心です。



### 質疑

**問** 危険区域を設定したエリアで対象になる世帯数は。

**答** 政策課長 半壊以上の被災世帯(983世帯)への居住意向調査で、別の場所や高台移転を希望した約700世帯。

**問** 住民へどの様に対応してきたのか。

**答** レッドゾーンとして説明会や審議会、広報紙、ホームページなどで説明してきた。

**問** 危険区域の利用計画は。

**答** 県に依頼して背後地の津波防災としての植樹や、一部を基準にあつた施設などで利用したい。

### 討論

**反対 渡邊 淳**  
対象になる住民の理解が浅く合意形成が浸透していない。承諾の形が不明瞭であり、条例の制定は時期尚早である。

**賛成 我妻周悦**  
条例は早期の生活再建を図るために必要であり、迅速な復旧・復興を望んでいる被災者に与与できるものである。

### ポケットのポーちゃんとのりい君の素朴な疑問

レッドゾーンってなに？

昨年の巨大津波で沿岸部の住宅等が流されるなど、大きな被害があったことは知ってるだろう。そのため、今後も津波で浸水する恐れのある場所は危険なので、建築基準法という法律で住宅の建築が制限されるんだ。町は8地区(着色部分)の約136ヘクタールを指定したよ。

指定区域内に住んでいた人たちはどうなるの？

希望があれば住宅のあった土地は町で買い上げるんだよ。その上で皆さんには安全な高台へ集団で移転してもらおうんだ。

こんなに景観の素晴らしい町なのに、海の近くで生活できなくなるの？

津波からの災害を減らすため、国や県、町では防潮堤を高くしたり、松や広葉樹を植えるなどの多重防御を計画しているんだ。



平成23年度  
決算

# 七ヶ浜家の家計簿をチェック!

一般会計の歳入175億5135万円 歳出162億905万円 をそれぞれ本町の平均的な世帯の年収に置き換えました。



9月定例会を、9月11日から24日までの14日間の会期で開催しました。震災復興事業等の平成24年度補正予算や条例など15件の議案を審議し、いずれも原案のとおり可決しました。また、一般質問は7人が活発な議論を展開しました。平成23年度各種会計の決算審査は特別委員会を設置して審議しました。(審議内容は6〜9ページに掲載しています。)

※ ( ) 内は平成22年度決算を置き換えた数値です。なお、金額は合計にあわせて一部端数調整しています。



**残ったお金 45万円**

使いみちが決まっている事業へ (震災関連の未精算分など)	13万円
財政調整基金に積み立て	16万円
24年度の一般会計に繰り越し	16万円



# 決算 審査

## どのように使ったのか

### 各課審査で質疑応答



お祭りは楽しいね

**子宮頸がんワクチン接種に  
(1493万円)**

**問** 接種者が延べ933人と前年(延べ169人)に比べ大幅に増加したが、**健康増進課長** 希望する中学1年生から高校1年生の女子の接種費用を(1回1万6千円)全額補助したため。

**答** 補助金を見直す考えは。政策課長 地域の活性化を図る目的で、13地区に30万円づつ交付している。夏まつりなどの事業に活用しコミュニティの確立に役立っている。増額などは3年ごとに見直しをして、地域の意見を参考に検討したい。

**安心・元気な地域社会  
づくり(390万円)**

**大木田貝塚の除草委託に  
(395万円)**

**問** 貝塚内の環境整備は。生涯学習課長 開花時期には貝塚にある縄文桜(エドヒガン桜)の見学者が増えている。周囲を除草し案内板の設置をしたが遊歩道の整備は財政面で難しい。

**遠山保育所改築の設計に  
(1370万円)**

**問** 選定業者の入札方法は。地域福祉課長 プロポーザル(企画書、提案書)方式により6人で審査した。完成後(平成25年4月予定)にモデル事業として全国に発信したい。



縄文桜も貝塚の宝もの



連絡手段が充実する無線機

**広報しちがはま  
ライフカレンダーの発行に  
(376万円)**

**問** 町外避難住民への配付は。政策課長 転居先が不明な町民もいるが、228世帯に郵送し町からの情報発信に努めている。また、ふるさと納税寄付者へも30件郵送している。

**MCAデジタル無線機  
の購入に(488万円)**

**問** 30台の配備先は。総務課長 各地区の防災対策本部になる分館や学校などに配備し、災害時の避難所等との連絡手段の確保と連携を強化する。



阿部 慶也  
副委員長



鈴木 初雄  
委員長

平成23年度の各種会計決算審査は特別委員会を設置して9月13日から24日までの日程で行いました。各課ごとに説明を受けたあと、質疑・応答により慎重に審査しました。その後、討論・採決の結果、全会計の決算を認定しました。主な内容を要約してお知らせします。

**うみ 自然との調和**

**クリーン  
エネルギーに  
356万円**

県のみやぎ環境交付金で沿岸地区の街路灯161基にLED照明機器を設置しました。この事業は二酸化炭素の排出量を減らす取り組みとして、23年度からの5年間で町内の街路灯を予算の範囲内でLED照明に交換するものです。

日中は目立たないが、夜になると・・・

**ひと 人間らしく生きる**

**認定こども園に  
4164万円**

平成23年4月に開園した民間経営の遠山(定員30人)、汐見台(定員20人)両保育園の運営費を補助しました。遠山保育所が被災しましたが待機児童をささずに済みました。

みんな仲よし。ハイ、ポーズ

**まち 快適で住みやすい**

**アナログから  
デジタルに  
2億2050万円**

平成元年に設置した防災行政無線は津波で沿岸部の9基が破損しました。町民に情報を正確に伝えるため、受信範囲が広く音質の優れているデジタル式に変更しました。復旧と新設で46基になりました。

情報をハッキリ伝えます

# 一般会計は前年度の3倍 復旧・復興で過去最大



まちの財源構造は **硬直化**

区分	平成23年度	平成22年度	説明
財政力指数	0.62	0.62	財政力を示す指標で <b>大きいほど財源に余裕</b> がある。
経常収支比率	100.9%	93.1%	財政構造の弾力性を判断する指標で <b>高いほど財政が硬直化</b> している。
経常一般財源比率	75.6%	90.7%	歳入構造の弾力性を判断する指標で <b>100を超えると余裕</b> がある。

まちの判断比率は **健全**

健全化判断比率	平成23年度	平成22年度	早期健全化基準
実質赤字比率	黒字のため数値なし	黒字のため数値なし	15.00%
連結実質赤字比率	黒字のため数値なし	黒字のため数値なし	20.00%
実質公債費比率	10.3%	12.0%	25.0%
将来負担比率	算出されず良好	算出されず良好	350.0%



海は町のシンボル

### 監査の報告

代表監査委員 遠藤均氏

一般会計の決算規模は東日本大震災の影響で、前年度に比べ約3倍に増加したが、実質的には厳しい財政状況である。今後は、財政運営にあたっては、後の旧・復興に向けた中長期的な展望のもと引き続き経常的な抑制と点検を行うとともに、限られた財源を重点的・効率的な配分と計画的な事務事業の推進を望む。

平成23年度 各種会計決算額

会計名	収入	支出	差引額	採決の結果	
一般会計	175億5135万円	162億905万円	13億4230万円	賛成14：反対1	
特別会計					
下水道事業	7億9296万円	7億7657万円	1639万円		
国民健康保険	24億3965万円	22億3866万円	2億99万円		
介護保険	12億8109万円	12億4097万円	4012万円		
後期高齢者医療	1億1169万円	1億593万円	576万円	全員賛成	
公園墓地事業	2391万円	2296万円	95万円		
合計	222億65万円	205億9414万円	16億651万円		
水道事業会計	収益的 <sup>*1</sup>	4億9124万円	5億3245万円	▲4121万円 <sup>*3</sup>	賛成14：反対1
	資本的 <sup>*2</sup>	373万円	4494万円	▲4121万円 <sup>*4</sup>	

\*1 収益的・・・経営に伴い、発生が予想される収入と費用  
 \*2 資本的・・・将来に備えて行う建設改良等の支出とその財源となる収入  
 \*3 不足分は繰越利益剰余金から補てん  
 \*4 不足分は積立金（留保資金）などで補てん



いつまでもお元気で

### 町花「はまぎく」を

**問** 町内の花壇に植栽してアピールする考えは。

**答** 生涯学習課長 震災で4地区10カ所の花壇が被災した。今後、復旧とともに花と緑のまちづくり推進委員会で検討したい。

**敬老会では**

**問** 出席者が減少しているが、健康増進課長 75歳以上の方をお祝いするために国際村で開催し、式典のほかアトラクションを楽しんでいた。23年度は2206人が対象で、参加者は302人（13・7%）だったが震災の影響で少なかったと考えている。

### 被災した住宅の「罹災証明」で

**問** 2次審査での変更は。

**答** 税務課長 調査は2人1組で行った。1次審査は外部の目視調査、2次審査は内部調査を実施。549世帯が2次審査を希望し208世帯が変更になった。

**問** 再開に向けた動きは。

**答** 産業課長 国に復旧事業として申請したが優先度が低く認められなかった。今後、農家の畑を提供する人がいれば仲介したい。



環境の悪化が心配

### 一般会計 反対：基金を使い住民の負担軽減を図るべき 賛成：民意の反映と財源確保に努めている

**賛成** 我妻周悦

**反対** 歌川渡

復旧に向けての課題は多いが着実に歩み出している。町は民意の反映と財源の確保に努め、防災行政無線のデジタル化などの災害復旧事業やクリーンエネルギーの推進、認定こども園の推進など行政全般にわたり予算が適正に執行されており評価する。

東日本大震災による住宅の一部損壊や仮設住宅の対応が遅いなど被災者に十分応えていない。将来の事業は、その時々住民が負担することが負担の公平性の原則である。過大な基金を取り崩し住民の負担軽減を図るべきである。

…なので反対します  
 …だから賛成します

議決結果 賛成14 反対1 賛成多数で可決



締結

山形県

あさ ひ まち

朝日町と友好の町に



さらなる絆を (9月25日 調印式)

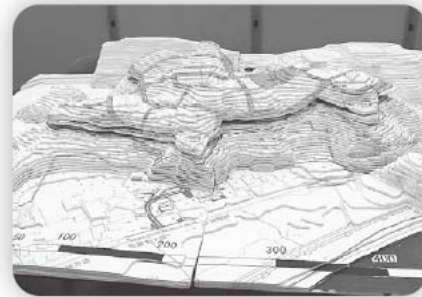
七ヶ浜町と朝日町は、平成14年度から「海の子山の子交流会」で両町の児童たちが交流を深めてきました。また、震災後には朝日町からさまざまな支援を受け一層連携を強めてきました。今後、災害時の応援協力とともに文化や教育、産業、経済、観光などの広い分野で交流を深め、両町の友好と繁栄を一層推進するために、友好の町を締結しました。



9月定例会では、災害危険区域制定の条例(特集に掲載)や友好の町締結、人事などの議案を審議し、全て反対なく可決・同意しました。

正算  
補予

平成24年度一般会計補正予算(第4号・第5号)は歳入歳出それぞれ120億1622万円を追加し、271億9940万円としました。補正の主なものは、高台住宅団地の実施設計や用地買収費、学校給食センター建設費などで、質疑・討論の結果、賛成多数で原案のとおり可決しました。



造成前模型



造成後模型(花淵浜笹山地区)

**問** 団地内には商業施設も入るのか。

**答** 政策課長 区画造成や上下水道、道路、公園などを含んだ団地設計としている。

**問** 高台住宅団地の実施設計範囲は。

**質 疑** 高台移転関連事業 (100億8587万円)

**答** 区割り、商業施設の必要性などは、地区ごとの協議会で話し合っている。

**問** 内容と予定件数は。

**質 疑** 宅地高上り事業補助 (1億円)

**答** 政策課長 掛かった費用の50%を補助し、200万円を上限とする。50件を想定しているが、状況により追加もある。

**質 疑** 学校給食センター建設費の追加 (2億399万円)

**答** 教育総務課長 資材および工賃の高騰による。

**問** 財源を地方債とした理由は。

**答** 町長 ドライシステム調理を含め文科省の基準内での補助しか認められていない。復興庁への陳情は続けるが早急な再建を優先させた。

**問** 事業の概要は。

**質 疑** 花淵浜ハーバースクエアまちづくり事業の調査 (1302万円)

**答** 産業課長 町民が集える公園などの空間や農・水産業の生産から

加工・販売までの6次化産業拠点を実現するための調査をする。

お も な 内 容

一 般 会 計	補 正 額
<b>■歳入</b> 国県の補助金 地方交付税 復興交付金基金および復興基金から	104億9551万円 2億3931万円 6億3673万円
<b>■歳出</b> 高台移転関連事業(実施設計・住宅団地整備他)へ 災害廃棄物処理・がれき撤去等へ 学校給食センター建設費追加へ 応急仮設住宅移転費用へ	100億8587万円 9億5561万円 2億399万円 700万円
<b>■複数年契約</b> 七ヶ浜中学校仮設校舎エアコンリース料(平成26年度まで)へ 第2スポーツ広場仮設照明灯リース料(平成27年度まで)へ	2436万円 1421万円

人 事

教育委員



新任 氏家恵美子さん(46歳)  
(湊浜)



新任 武田 光彦さん(66歳)  
(汐見台)

監査委員

再任 遠藤 均さん(64歳)  
(汐見台)

任期は平成24年10月1日から4年間

固定資産  
評価審査委員

再任 鈴木鶴時さん(71歳)  
(松ヶ浜)  
任期は平成24年10月1日から3年間

諮問

人権擁護委員

再任 村上妙子さん(60歳)  
(境山)  
任期は平成24年10月1日から3年間

契約

町立小・中学校  
校舎補修工事

変更契約  
変更前 4021万5000円  
変更後 5361万6150円

変更理由 変更新 鹿島建設(株) 東北支店  
汐見小・向洋中の損壊による補修が増加となったため。

動き出す高台移転事業

国から約95億円の第3回配分



# これも議会の仕事です



## 皆さんの声を町へ要望しました

第2回議会報告会の意見・要望を、議会からの要望書として町に提出し回答を求めました。内容は次のとおりです。

## 議会運営

意見・要望	町からの回答
高台移転、災害公営住宅用地の買収・造成を早急に。	地権者の理解と協力を得ながら用地交渉を進め、取得でき次第着工する。
移転用地の早期確保のため評価基準額に町独自の上乗せを。	震災後財政が逼迫しているため、町独自の支援は行わない方針である。
仮設住宅への風呂追い焚き機能・物置など環境整備を早急に。	国際村第2駐車場を除く6地区すべての世帯に、設置要望調査を実施し県に報告。追い焚き追加工事は10月下旬までに実施。物置設置の期日は未定である。
各地区の雨水排水対策を早急に。	復旧事業の完了時までには仮設ポンプ等を設置し強制的に排除する。
高台への避難用防災道路の確保を。	「防災道路」という位置付けの整備予定はない。避難路の確保として必要に応じ整備を検討したい。
自主防災組織との連携で、住民の早期避難対応を。	町と自主防災会が連携し避難対策を講じる。
狭あい道路整備の促進を。	土地区画整理が必要な被災地域は拡幅し、狭あい道路を解消する予定。他は狭あい道路整備要綱により実施する。
各行政区に放射線測定器の貸し出しを。	環境生活課への申請で町民、行政区へ貸し出しをしている。(最大4日間)
坂病院玄関前まで町民バス「ぐるりんこ」の運行を。	一方通行の道路で道幅も狭く、安全面でも支障をきたすため難しい。停留所移転は検討したい。
御林地区と要害地区を独立した行政区扱いに。	「安心・元気な地域づくり補助金」事業を平成26年度以降も継続するか否かを協議する際、世帯数も考慮し検討したい。

## 教育民生

### 遠山保育所の開所が待たれます

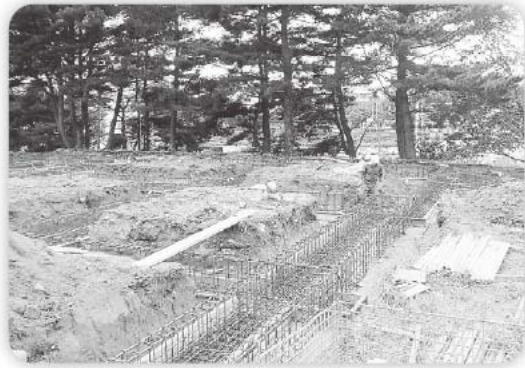
6月以降、調査事項である「公共施設(教育・福祉)の復興策について」の進捗状況を調査し協議しました。全体的に著しい進展が見られないものの少しずつ進んでいます。主なものは、

●遠山保育所は起工式が行われ開所に向けて工事が進行中です。

●町民体育館、図書センター跡地は駐車場になります。

●七ヶ浜中学校体育館の改修工事は9月末からの予定で

●今後は地区住民の「ユニティ」の場であり早期の建設が望まれる地区公民分館と、震災復興のシンボルで、現在、仮校舎で授業を行っている七ヶ浜中学校の校舎建設を重点的に調査することになりました。



遠山保育所の基礎工事が始まる



今秋の再開へ急ピッチ(海苔養殖施設)

## 産業建設

### 着実に復興へ6次化産業に向けて

農地、漁業施設の復旧がようやく見え始めており、その後の対策が重要になってきます。農業、漁業、商工業の連携により、さらに「付加価値を高め復興へ進むためには」を調査するため各部門の専門家の意見を求めました。

それぞれの部門の事業を単独で進めるのではなく複合的に行う6次化で何倍にも成果を得る形が重要であり、本町に適合するものを見極めが重要になってきます。

今後は成功した具体例を中心にいち早い復興のため引き続き調査を進めていきます。

## 総務

### 自主防災会との懇談会を開催

災害に強いまちづくりの調査事項に基づき、自主防災会との懇談会を開催しました。

(開催日)

- 8月6日 境山地区
- 8月7日 湊浜地区
- 8月8日 花洲浜地区
- 8月8日 汐見台地区
- 8月9日 四丁目
- 8月9日 吉田浜地区
- 8月9日 遠山地区

懇談会の内容は昨年の東日本大震災を踏まえ、自主防災会の機能と訓練、今後の課題・要望等を中心にお話を伺いました。自主防災会長をはじめ関係者の方々が日頃から防災訓練を通じ住民を災害から守る体制や、独自に行っている備蓄倉庫も見学しました。8月30日委員

員会を開催し懇談内容の確認と課題等の取りまとめを行いました。各地区から出された要望の主なものは災害時の通信手段の確保、ガソリンや灯油の備蓄、防災井戸の制度化、傷害保険の確立、搬送用リヤカーの配備などです。今後行政への申し入れを検討し引き続き調査していきます。



真剣に耳を傾けて(吉田浜地区)

## 議会広報

### 全国研修会で学びました

昨年の東日本大震災以降、しばらく途絶えていた他の町村からの視察を受け入れられました。7月には山形県庄内町から7人、8月には鳥取県日吉津村から11人の訪問を受け、互いに熱心な質疑応答を行いました。それぞれの議会の微妙な違いを乗り越え、より読みやすい議会だよりにしたことの熱意が感じられた視察受け入れでした。

7月末には東京で議会広報全国研修会があり、広報委員3人が参加しました。大変有意義な研修だったとの報告を受けています。その内容の一部を紹介します。

●レイアウトや表現の講義では、小見出しの使い方が最も参考になった。

今後一般質問などにも取り入れることが考えられる。他の委員と協力してさらに良い議会だよりを目指していきたい。

●一人でも多くの町民に読んでもらわなければ意味がないことに編集の難しさを感じた。

●講義だけでなく、部会を編成してさまざまな分野で討議することも有効と感じた。





# 追 追跡レポート—議会の提言は生かされたのか— どうなったの？ あの質問のゆくえ 跡

今回は震災特別委員会への質問を取り上げました。

答弁



議会として、災害時応急体制を確立し、現地調査や陳情を検討していく。がれきの二次処理状況調査を予定。

震災特別委員会の役割と活動は？

〈平成24年5月 第2回議会報告会〉

そして

議会は災害時の非常招集要領を平成24年3月に決めました。

7月10日

宮城県災害廃棄物処理施設（がれきの二次処理場）を視察調査しました。

所在地 仙台市宮城野区 港一丁目地内

宮城県 災害廃棄物処理施設

ここでは県委託処分として、宮城東部ブロック（塩竈市、多賀城市、七ヶ浜町）の災害廃棄物が二つの焼却プラントによって処理されています。

本町の一次仮置場から二次処理場に運ばれ、悪臭が発生していた災害がれきの山が少しずつ低くなりました。



8月28日  
要望が出ていた要害地区を中心に町内の浸水被害区域の現地調査を行いました。

●要害地区  
下水ポンプ場  
排水門の問題  
（大潮満潮時の大雨で冠水）

●東宮浜地区  
漁協前の排水路を通して側溝から宅地内に海水が流入 他

●代ヶ崎浜地区  
清水・西の道路嵩上げによる宅地内に海水が流入 他



地元の声を聴きました

委員会として対応策をまとめて議長に提出しました。

東日本大震災復興対策特別委員会

平成23年9月定例会において設置し、現地調査や要望の申し入れなど、住民の安全な暮らしと町復興のための活動を行っています。

幼保小中連携・交流では連絡会議で情報交換をし、学校行事や授業などに園児が参加したり参観したりしています。また、小学生が中学校を訪問し総合の授業や部活動見学施設見学をさせていた。たくさん活動も行ってあります。

### 四、広報活動

この活動では、ホームページを通して情報の発信に努めています。町の広報と連携して報道関係者にジョイント5の取り組みを知らせています。

### 五、開放講座

開放講座では、先生方の得意分野を通して地域と関わり、貢献する活動を行ってきました。今年度は66の講座が準備され、参加申込数も1200名を越えました。また、仮設住宅への出前講座も行いました。

## ジョイント5 七ヶ浜ジョイント5

ジョイント5とは、町内の5つの小中学校の児童生徒、そして町内の保育所・幼稚園の園児教職員同士が交流しながら、幼児期と義務教育9年間のスパンで「二十一世紀に生きる心豊かでたくましい児童生徒」を育てていくという取り組みです。各小中学校や公共施設がコンパクトにまとまっている七ヶ浜町の地理的特質を最大限活かして進めています。

### 5つの柱

- 一、健全育成  
具体的な内容としては、①幼保小中連携・交流 ②校外指導 ③不登校対応の諸会議があります。



**日本一に向けて**  
執行部では、朝のあいさつ運動をはじめ、帰りの放送など、さまざまな活動を行っています。あいさつ運動は毎朝行っていて、ほとんどの生徒があいさつを返してくれま



**身近なもので人助け**  
向洋中では、ペットボトルキャップを各家庭から集めています。これまでに集めたものうち、洗浄・乾燥・点検の終わ

## We are KOYOI 向洋中

った5万8千個を協会に送り、72人分のワクチンを寄付することができました。捨ててしまえばただのゴミでも、活動次第で助けられる命があるのです。今後も続けていきます。



### 最後は親子対決！

今年も9月に体育祭が開催されました。今年も三クラスの縦割り対抗で戦いました。その中の縦割り対抗大綱引きでは、三クラスの中で優勝したクラスがPTAの方々と戦いました。女子は負けましたが、男子は見事勝ちました。

今年も9月に体育祭も、生徒たちの頑張りがあり、大成功で幕を閉じました。

### 栄光に近道なし

「日本一」の学校を目指すために私たちは日々努力しています。三年生も、最後の体育祭を楽しんでいました。







千葉志美枝 議員

# 町の防災会議に女性の参画を

## 町長 来年度から積極的な登用を図る



女性の声を有効に活かして

**問** 東日本大震災後、地域防災計画の見直しが行われているが、いつを目途に策定するのか。

**答** 町長 国の中央防災会議や平成24年度に見直しを予定している県の動向を踏まえ、町としては25年度に行う考えである。委員の意見を聞く防災会議を開催していく

**問** 国では防災対策に女性の参画を拡大させるよう促している。本町の防災会議には女性が入っていない。防災計画の見直しの際にぜひ登用を図るべきではないか。

**答** 17人である。構成委員は宮城県海上保安部長や宮城県仙台東木事務所長、塩釜警察署長等であり、他に町の関係者などである。

**問** 防災会議の構成委員は何人か。誰が任命を受けているのか。

**答** 町長 国では防災対策に女性の参画を拡大させるよう促している。本町の防災会議には女性が入っていない。防災計画の見直しの際にぜひ登用を図るべきではないか。

**問** 町内の仮設住宅には地域コミュニティの場として集会所が設置されたが、場所によっては既存の建物で対応している所もある。野外活動センターの仮設ではどのように利用されているのか。

**答** 町長 目の前に公共施設があり県から集会所は設置してもらえなかった。町は「いろいろの家」を使用するよう周知したが、距離も遠く利用者は少ない。

**問** 松ヶ浜児童遊園内に仮設ではどのような利用されているのか。

**答** 30戸以上の仮設に対して集会所を設置する

**問** 住民同士が気軽に集まって交流できる仮設住宅独自の集会所設置



集会所入口 (野外活動センター)

### 町長 仮設の空き部屋を利用する 未設置の2カ所へ独自の集会所を

**問** 女性の視点が地域の防災力の向上に期待できることから、防災会議に女性を登用しやすくする条例改正案が国から示された。本町では来年

**答** 度には条例を改正し女性の積極的登用を図るとともに、様々な分野から幅広く意見の集約を行い、地域防災計画に反映させていく。

**問** 町民の方針があり、松ヶ浜と湊浜を合わせ34戸を一つにして湊浜側に集会所を設けた。謠例には園内にある集会所の使用をお願いしたが、その都度鍵を借りる不便さから利用されていない。

**答** 世話人から仮設の一部屋を集会所として利用したいとの要望があり、野外活動センターの仮設では部屋が空いたので現在利用している。謠地区児童遊園でも部屋が空く予定があり今後利用したい。



ズバリ

# 町政を問う

## 一般質問一覧表

9月定例会の一般質問は、11日から12日までの2日間行い、7人が活発な議論を展開しました。質問と答弁を要約した内容を17ページから23ページでお知らせします。なお、タイトルは通告のとおりです。

**千葉志美枝** .....17ページ

- ・ 地域防災計画の見直しについて
- ・ 仮設住宅独自の集会所の設置について

**渡邊 淳** .....18ページ

- ・ 町民力を引き出す対策について

**遠藤 喜二** .....19ページ

- ・ 震災復旧における町の対応について
- ・ 地元ガレキ利用の自然の防潮堤の考えについて

**鈴木 勝美** .....20ページ

- ・ 高台移転・集会所の場所選定に至る経緯及び現状について
- ・ 通学路に防犯灯の設置を

**歌川 渡** .....21ページ

- ・ 要害地区の大雨時の雨水排水対策について
- ・ 住宅再建に町独自の支援体制を
- ・ 子ども達が安心、安全に暮らせる環境づくりを

**郷右近剛史** .....22ページ

- ・ 復活！2012年「しちがはま町民夏まつり」の総括について
- ・ 汐見小学校から高い濃度の放射性セシウムが検出されたことに対する町の対応について
- ・ 教育長在任中の総括について

**角 靖志** .....23ページ

- ・ 通学路の交通安全対策について
- ・ 違法ダウンロードの刑事罰化の周知について





渡邊 淳 議員

# 町民力を引き出す対策は 町長 本音を引き出す機会をつくる

**問** 復興事業では閉鎖的な行政主体の進め方が行われている印象を受ける。町民は受け身になつており、まちづくりは全て行政任せである。住宅再建が最優先するのは理解できるが、地域活性化策に町民の参加がなく進められている。町民とともに被災地域の土地利用と将来像を具体的に創出できるよう促進する考えはないか。

**答** 町長 震災復興計画で前期基本計画を策定した。居住意向調査や震災復興検討委員会の開催、復興まちづくりワークショップ等、失われた景観や土地利用の見直しも含めて、七ヶ浜の全体像を多くの住民と議論を交わし復興の目標とした経緯がある。特に住民の要望意向を重視し進めて

きた。その実現に向けた取り組みの一つが移転を希望する住民が主体となつたまちづくり協議会の発足である。目的は移転者同士が魅力あるまちづくりを進めることにある。 菖蒲田浜中田地区にも、まちづくり協議会が発足した。他の地区でも住宅復興に向けた意見交換の場として、住民主体のまちづくり協議会の発足を進めていく。

**問** 土地利用の骨格軸である県道の線形から、環境デザインを踏まえた土地利用計画を地区の自主的な活動により導き、自発的なまちづくりを地区の住民が当事者として具体的にいう方法は考えられないか。

**答** 復興計画の策定には住民の考えや意見交換できる機会の創出に心がけ、ワークショップを開催し意向調査をはじめ多くの意見を拝聴する機会を設けながら取り組んでいく。

**問** 跡地利用や緑地の整備などを県と町が協議する際、周辺住民の意見を組み入れやすくする策を取り入れられないか。

**答** 情報発信の機会を増やして意見を拝聴し復興に係る将来計画に反映したい。被災者に寄り添った形を何度も実施し、時間をかけて本音を聞く。

**答** 県道の線形も計画策定時で住民意見を集約しながら道路管理者である宮城県はじめ復興局やアドバイザーの大学教授、都市設計の専門家による意見や技術を取り込みながら進めている。人命の安全を第一とし、自然と共存する美しい景観と街並みの実現に向けた復興まちづくりに取り組んでいく。



復興まちづくりワークショップ

# いのちを守る森の防潮堤を

## 町長 モデル地区で検討したい



遠藤 喜二 議員

**問** 「白砂青松」と言われる青々とした松は根を横に張る性質から、直根性ではなく津波に弱いので、「いのちを守る森の防潮堤」を提唱したい。松林の奥の方に高木・垂高木・低木の広葉常緑樹を植え七ヶ浜の観光資源として利用できないか。

**答** 町長 津波防災緑地は、防災や環境、景観を配慮することを基本とする。防潮堤に近い保安林エリアに黒松林を、内陸側には落葉広葉樹と常葉広葉樹の雑木林の混合樹林とし、モデル地区で検討したい。

**今までの防災林** (アカマツ・クロマツのみの防災林)

なぜ今までマツ林による防災林だったのか？  
マツは成長が早く、風に強い。日本人のマツ信仰？

**これからの防潮林** (生命と財産を守る森の防潮林)

**【特徴】**  
それぞれの土地の樹種の選択が基本。その土地本来の深根性・直根性の様々な樹木が互いに支えながら成り立つ森林は、最も自然の力強い状態であり、風災や害虫にも強い。多様なポット苗を混植密植させて、植えてから2〜3年は除草しなければならぬが、あとは管理不要。世代交代を促しながら、次の水害期が来る9000年は保たれる。青葉・落葉木は根付して地盤増強に役立たせる。後継樹が待っていることで森の防災環境保全力を維持しながら地域と共生する。人的影響がなければその土地にあるべき森なので、自然環境教育に最適。

**【津波災害時】**  
多層構造の森が壁の壁となる。津波を吸収し、その効果により津波のエネルギーが減衰されて、水位と速度が下がり、通過する時間を遅くすることができる。

**【引き水時】**  
引き水の際には、津波する人々や、財産が海に流出するのを食い止めることができる。

**【津波災害時】**  
多層構造の森が壁の壁となる。津波を吸収し、その効果により津波のエネルギーが減衰されて、水位と速度が下がり、通過する時間を遅くすることができる。

**【引き水時】**  
引き水の際には、津波する人々や、財産が海に流出するのを食い止めることができる。

**【津波災害時】**  
多層構造の森が壁の壁となる。津波を吸収し、その効果により津波のエネルギーが減衰されて、水位と速度が下がり、通過する時間を遅くすることができる。

**【引き水時】**  
引き水の際には、津波する人々や、財産が海に流出するのを食い止めることができる。

# わかりやすい説明を 町長 反省を踏まえて 心がける

**問** 一部の職員の心ない上から目線の対応が見られる。町民をいたわる気持ちで噛み砕いた、わかりやすい説明をしてもらいたい。

**答** 町長 説明をしていく中で行政用語での説明や、法律に基づいた国の制度を、より正確に伝えるため住民に馴染みの薄い、わかりづらい用語での説明になってしまつた。今後はゆっくり話をしたり、わかりやすい説明に心がける。

**問** 用地買収に関して所有者に事前の相談もなく図面化した。さらに価格交渉も遅いのではないか。

**答** 相続問題や不動産鑑定で地権者の協力と理解なしでは前に進めない。今後とも、粘り強く交渉を進め事業の実施に向けて取り組んでいきたい。笹山地区の事業実施にかかる交付金決定がなされるところである。 快諾をいただいた地権者が増えてきたので、一日でも早く事業実施に向けて用地交渉に取り組む。





鈴木 勝美 議員

# 西原地区は高台移転に適さない 町長 移転に反対はない

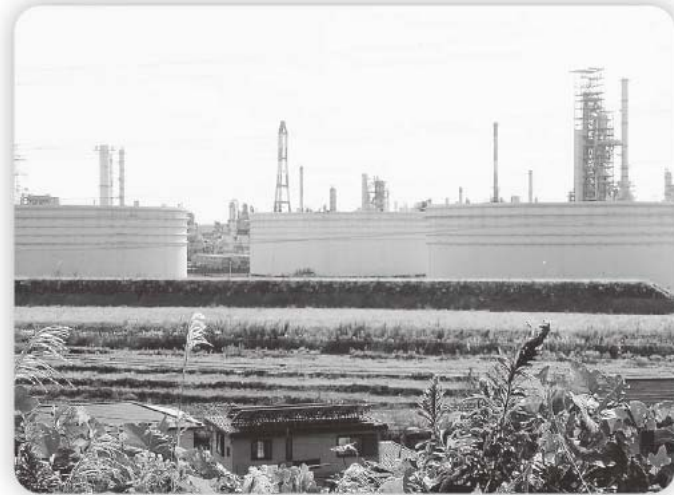
**問** 3・11の大震災時、隣接する製油所で火災が発生。2km圏内避難指示を受け湊浜や松ヶ浜遠山地区は避難を余儀なくされ不安な日々を過ごした。8月中旬にも火災が発生している。

このようなことから松ヶ浜西原地区の高台移転の候補地は、災害時には避難の場所でもあり、区民のコミュニティの場所である集会所等も含め移転地として適さないのでは。

**問** 製油所では創業以来、数度の火災が発生。災害が起きた場合危険が及ばないとは限らない。これまでは騒音での指摘はしてこなかったが、西原地区に団地ができれば騒音問題も起きてくるのでは。

**問** 松ヶ浜の浜屋敷は現在のまま利用すれば確かにレッドゾーン。現在の防潮堤の高さは3.5mである。防潮堤までは町道の高上げをし、宅地部分を1〜2m高上げをし区画整理をすれば海の見える住宅地ができるが。

**答** 当初は浜屋敷の整地も考えたが相当量の盛土が必要。液状化の恐れが出てくるので断念せざるを得なかった。



隣接する製油所

**答** 町長 津波で被災した現地の再建を検討しながら、町担当および復興アドバイザー、地区代表の震災復興検討委員等と話し合いを進め松ヶ浜の西原地区を候補地とした。この地域の土地利用に当たっては都市計画法上の指定や、消防法の規制もされていない。その他の災害防止に関する法律でも松ヶ浜西原地区は危険区域としての規制はされていない。西原地区への高台移転への反対は出ていない。

**答** 本町では高台移転の考え方として、地域コミュニティに配慮する形で地区内に被災者の高台移転先を示しており、西原地区への移転対象希望者に対しては了承を得ている。早期着工に向け地権者と交渉を進めている。

**問** 日暮れが早くなり下校時の被災跡地は明かりも少なく車で通っても淋しい。子どもたちも不安を感じているのではないか。最近、通学路の児童の列に車が突っ込むなどの事故も多発している。安全対策として防犯灯設置の考えはないか。

**答** 教育総務課長 震災で防犯灯が破損、流失した。被害状況を防災対策室で調査。早急な対策が必要なので県の交付金事業で設置する。

## 通学路に防犯灯の設置を 教育総務課長 調査して設置する

**問** 本年8月に要害地区内の雨水排水対策に関する要望書が提出された。過去の被害状況は。

**答** 町長 近年で、平成14年7月ポンプ場冠水。23年9月周辺冠水。24年6月公園冠水。

**問** これまで同地区から出された雨水排水に関わる要望と対応は。

**答** 町長 女川町では住宅再建独自支援として、町外への人口流出防止や地元定住促進策で土地・家屋の取得費補助200万円、家屋のみ取得費補助150万円、中古住宅取得費補助100万円などを行っている。本町での支援の考えはないか。

**問** 今回のような要望はない。側溝清掃の要望はありその都度対応している。

**答** 町長 ブルゾーンやイエローゾーン内

**問** 自力での住宅再建者へ、資金確保のため被災地買い上げの速やかな契約手続きと支払いを。

**答** レッドゾーンやイエローゾーン内の自力再建に支援を検討している。

**問** 今回の要望書に対する町の受け止めと具体的対策は。

**答** 県の港湾復旧工事と合わせ雨水排水工事を計画していく。その間仮設ポンプ等で対応する。

# 要害地区の雨水排水対策を

## 町長 県の復旧工事と合わせて進めたい



歌川 渡 議員

## 住宅再建に町独自の支援は 教育長 宅地高上げ補助をする

**問** 現地再建で、宅地高上げに費用の2分1、上限200万円を補助する。

**答** 町長 現地の再建で、宅地高上げに費用の2分1、上限200万円を補助する。

## 学校の環境づくりを 教育長 信頼関係を十分に

**問** 大津市での男子中学生がいじめを苦に自殺した事件の教訓を今後に生かすため、町内小学校の状況調査等の対応はどう進めてきたのか。

**答** 教育長 学校には早期発見に力を入れるよう願っている。

**問** 大津市教育委員会の対応で事実の公表が遅れた理由に、学校評価制度や教員評価制度に問題があるのではないか。

**答** 職員会議などでの情報共有は必要と考えられている。教師との信頼関係が第一である。



地域全体で子どもの育成を



地元・自主再建にも独自支援を

**答** 制度の問題ではなく隠ぺいするなどの体質の問題ではないか。





角 靖志 議員

# 通学路の交通安全対策は 教育総務課長 住民や関係団体と連携



ハンプの一例

**問** 町内の通学路で危険箇所と認識している場所はどこか。

**答** 教育総務課長 菖浦 田浜 汐見台歯科前の交差点。遠山二丁目の河北新報前の交差点。境山二丁目のマルエイ商店付近の丁字路。要害、バス停付近で歩道が狭い所。また震災の影響による危険箇所があったが対策済である。

**問** 地域住民からの情報提供や関係機関や関係団体と連携し、体制を整えていきたい。

**答** 教育総務課長 菖浦 田浜 地域住民からの情報提供や関係機関や関係団体と連携し、体制を整えていきたい。

**問** 現在、菖浦田浜石畑前の横断歩道を渡らずに、汐見台歯科前の交差点を通学路としている。今後、どちらに信号機の設置を要望するのか。

**答** 町長 その2箇所のうちのどちらかになると思うが、子どもたち

**問** ハンプを信号のない交差点や横断歩道に設置したり、自動車の速度が出過ぎる箇所等に設置する考えは。

**答** 教育総務課長 今後、設置を検討する際は、交通量や道路の状況、ハンプの有効性、費用対効果なども見極めながら必要に応じて設置する考えだ。

## ●放射性セシウムの濃度について

	基準値	対応
汚泥 焼却灰	ある 8,000 <sup>μ</sup> ケル	基準値未满是、一般廃棄物と同様の埋め立て処分をする。基準値以上は、国の最終処分場で処分をする。
土 壤	な い	線量率0.23シーベルト以下であれば、空間線量率0.023シーベルト以下であれば、安全であると判断する。

**問** 汐見小学校の側溝柵の土壌から、高い濃度の放射性セシウムが検出されたが、人体への影響はどうか。

**答** 教育総務課長 側溝柵の上1mの空間線量は0.13マイクロシーベルトで0.5mの空間線量は、0.16マイクロ

**問** 当初「積極的に公表しない」と言っていたが、一転各学校を通して公表したのはなぜか。

**答** 各方面から電話での問い合わせがあり、環境生活課等と相談して公表することを決定した。意図的に隠ぺいしようとしたのではない。

**問** 学校以外の町内の側溝等は調査するのか。

**答** 学校以外の町内の側溝等は調査するの

**問** 当初「積極的に公表しない」と言っていたが、一転各学校を通して公表したのはなぜか。

**答** 各方面から電話での問い合わせがあり、環境生活課等と相談して公表することを決定した。意図的に隠ぺいしようとしたのではない。



郷右近剛史 議員

# 検出されたセシウムは

## 教育総務課長 人体に影響ないレベルである

シーベルトであり健康に影響のないレベルである。

**問** 検出された土壌はどう処理するのか。

**答** 現在、役場敷地内で最終処分場が選定された後に搬入処理をする計画である。

**問** 町内全域を調査するのは厳しい状況である。町民から要望

**答** があった場合はいつでも対応する。

## 教育長15年間の総括は

### 教育長 3つのことを努力してきた

**問** 教育長は平成9年10月から現在まで15年間在任したが、一番力を入れてきたことは何か。その成果は出たのか。

**答** 教育長 高校誘致や教師の質の向上、特

徴ある教育の立ち上げに努力してきた。特に小学校が連携して相互交流をする教育を展開し、「ジョイント5」と名づけた教育実践を立ち上げた。



15年間 大変お疲れさまでした

**まじりの効果は**  
生涯学習課長  
町民を元気づけた  
**問** 復活！2012年「しちがはま町民夏まつり」が、約1000万円の復興交付金を使い、実行委員会に補助して開催されたが、町民を元気づけるという目的は達成できたのか。

**答** 生涯学習課長 協働による町づくりが再出発できたこと、一定の経済効果があったこと、ステージが充実し、花火に歓喜の声が上がったことから町民を元気づけられたと考えている。

**問** 来年度は実施するか。実施する場合は「まつり」を観光対策として考えてはどうか。

**答** 町長 白紙の状況である。実施とする場合は検討課題である。

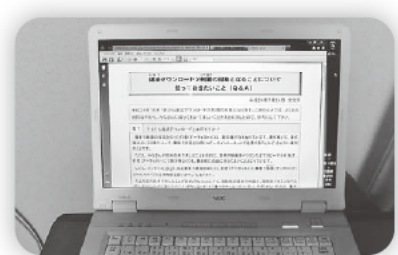
## 違法ダウンロードの刑事罰化の周知は 教育総務課長 国に協力していきたい

**問** 本年10月1日に施行されるいわゆる「違法ダウンロードの刑事罰化」を、町民へどのように周知するのか。

**答** 教育総務課長 国からの依頼に基づき啓発に協力していきたい。

**問** この法律に関して、子どもたちがインターネットの利用を恐れて止めてしまい、将来に不利が生じることがないような教え方をしなければならぬと思うが。

**答** その内容も説明しながら、子どもたちには指導しなければならぬと思っています。



適切に使おう

**問** 子どもたちに正しい知識を身につけさせたいと考えている。

**答** 子どもたちに正しい知識を身につけさせたいと考えている。



# 町民の声

いわもと よしはる  
岩本 喜治さん

(七の市商店街 夢麺店主)



## 笹山の商店街の作りは…

昨年12月11日にオープンした『七の市商店街』も早いもので10ヶ月が経ちました。町内で被災した八百屋、理容店、美容院、花屋、カイロプラティック、魚屋、麺屋が軒を連ねています。“地域の拠り所となる商店街”を目指し、各店舗の皆さんが協力して、地元住民同士の新たな交流や憩いの場が生み出されています。遠方からいらっしゃるボランティアの人々を交えた交流も盛んです。

しかし笹山移転時の商店街の作りが、未だ提示されません。新しい地域コミュニティを考えた、憩いと語らいができる1カ所にまとめた商店街の作りをして貰いたいと希望します。

町でも新しいコミュニティをと、試行錯誤しながら模索し、良い環境の高台移転住宅構想を考えていると思いますが、広報やホームページで告知していると言わないで、個人個人と心ある説明と指導をして貰いたいです。



町民の皆さんからお寄せいただいたご意見、ご要望などを紹介いたします。どしどしお寄せ下さい。お待ちしております。

## 初めての幼稚園と保育園の

## 合同運動会 (表紙写真)



遠山幼稚園PTA会長

よしだ まさと  
吉田 正朋さん



前日の雨で開催が心配だったが、親御さんたちの期待と、子どもたちの頑張りのおかげで、曇り空のスタートとなった保育園と幼稚園の初めての合同運動会。

将来を担う子どもたちの一生懸命な姿に、ものすごい成長を感じ感動を与えてもらいました。ご父兄の皆さん、ご協力いただきました関係者の皆様、ありがとうございました。

### 園児保護者

いたみ しずか  
伊丹 静香さん



たくさんの日差しと声援に包まれ子どもたちは元気に走ることができました。心より感謝申し上げます。

### 和光幼稚園園長

わたなべ しゅんどう  
渡邊 俊道さん



同性寺学園三園合同運動会！やる気満々の園児たちは将来の金メダルアスリートのたまごたち。可能性は無限大である。



# 議会を監視するのはみなさんです。

一次の定例会は12月5日開会予定です

面倒な手続はございません。どなたでも気軽に傍聴することができます。ぜひお越しください

詳しくは議会事務局まで TEL 357-7435

または、町ホームページ「町民便利帳」をご覧ください。 <http://www.shichigahama.com>

議長	佐藤 梶信	副委員長	角 靖志	委員	岡崎 正憲	議会広報編集特別委員会	遠藤 喜二
発行責任者	渡邊 淳	委員	千葉志美	委員	糸久 博		
		委員	遠藤 喜二	委員	角 靖志		

晴れ渡った空を見上げると、雪の降った昨年の春の大震災が嘘のように感じます。

雲ひとつない空に大きな白い塊が現れ、それが復旧に対する団結のように思われます。その大きな塊の中心から一筋の光が海面を照らしたのが、復興に対する明るい未来の輝きです。

秋の訪れが足元に落ちた木の葉の彩づきで今年の長かった暑い夏の陽射しを夕暮れが忘れさせてくれると思います。

月明かりの澄んだ空にくっきりと現れた明日への復興の光に心が洗われるようです。

編集後記

